

各団体による野菜の消費拡大の取組みについて

会 員 名	取 組 概 要
主婦連合会	<p><u>販売促進イベント</u></p> <p>東京都千代田区六番町にあります主婦会館プラザエフの前にて、平成 27 年 3 月 4 日・5 日に産直市を開催しました。今回は八丈島連合婦人会会長からの特産品(八丈島フルーツレモンとジャム・あしたばと明日葉茶や乾燥削り節・ふりかけ・花など)を主婦連合会の定例会で紹介してもらいました。</p> <p>他県の野菜・加工品・福島復興支援商品などの販売もありました。年に 4～5 回産直市を予定しております。生産者と消費者が直接話を出来る機会です。多くの方が足を運んでくださいます。</p>

会 員 名	取 組 概 要
全国農業協同組合連合会	<p>1. 「やさいの日」の取組み (1) 開催時期：平成 27 年 8 月 30 日（日） (2) 場所：首都圏イベントスペース (3) 内容：イベントスペースにて「やさいの日」イベントを行い、国産野菜の消費拡大を訴求する。</p> <p>2. ラジオ放送局（関東圏）と連携した取組み (1) 実施時期：平成 27 年 4 月～9 月 (2) 内容： ア. ラジオでの旬の青果物に関する情報発信（毎週土曜日） （商品・産地・出荷情報、全農職員や JA 全農青果センター(株)社員電話出演による PR 等） イ. ラジオによる事前告知等を含む青果物の販売促進イベントの実施 （7 月、8 月、9 月、11 月） ウ. 毎月 1 回番組内プレゼントコーナーへの商品提供（毎月 5 名）</p> <p>3. 大学生協との連携によるメニュー提案 (1) 実施時期：平成 27 年秋 (2) 場所：関東圏の大学 (3) 内容：青果物の摂取促進を内容とする食べ方提案</p> <p>4. 夏野菜消費拡大キャンペーンの実施 (1) 実施時期：平成 27 年 7～9 月 (2) 内容：リーフレットを作成して、参加県のイベントで配布 web で夏野菜産地情報を配信して、約 100 名に野菜等をプレゼント</p> <p>※本所での取組みを中心に記載。各県本部においても消費宣伝・消費拡大の取組みを実施。</p>

会 員 名	取 組 概 要
農林水産省	<p>1. 農林水産省ホームページにおけるレシピ紹介等 野菜価格に対応したレシピを農林水産省ホームページ等において紹介し、消費拡大を促進。 また、フード・アクション・ニッポンホームページに季節の野菜料理レシピ等の情報を掲載して、一般向けに周知。(4月～翌年3月、随時)</p> <p>2. 料理レシピサイト「クックパッド」と連携したレシピ紹介等 料理レシピサイト「クックパッド」に開設した「農林水産省の公式キッチン」において、野菜の生育状況及び価格見通し、季節の野菜料理レシピ等を掲載して、一般向けに周知。(4月～翌年3月、随時)</p> <p>3. 「日本の食魅力再発見・利用促進事業」を実施予定 地域の農林水産物の利用促進や全国レベルでの国産農林水産物・食品の消費拡大に向けた取組を実施。 (4月～翌年3月) (1)「消費拡大全国展開事業」 (内容) 国産青果物の消費拡大に向けて、地域の食材や食べ方など食文化に関する情報を活用した取組、販路拡大や消費促進の担い手育成などの取組を実施。 (2月19日に公募締切し、今後、事業実施主体の決定等を経て、4月以降事業開始予定。上限事業費は1,500万円。) (2)「食のモデル地域育成事業」 (内容) 地域食材の消費拡大に向けて、地域関係者との連携による人材育成や商品開発、販路開拓などの取組を実施。 (2月12日に公募締切し、今後、事業実施主体の決定等を経て、4月以降事業開始予定。補助率1/2、1事業実施主体当たり補助金額上限400万円。)</p> <p>4. 日本郵便株式会社発行の特殊切手「野菜とくだものシリーズ」に関する協力 特殊切手「野菜とくだものシリーズ」の発行にあたり、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構とともに助言等を行い、季節の野菜等の情報発信に協力。(4月～翌年3月、随時)</p>

食べておいしさを知る

野菜の学校2015

(講座) 日本のお伝統野菜・地方野菜

稀少な野菜の物語が始まります。

伝統野菜と呼ばれるプレミアムな野菜があることは、野菜や地方の文化に関心のある方なら、どなたもご存じでしょう。今回のシリーズは、なかでもスポットライトがまだ当たっていない、けれどひとつひとつのバックグラウンドに、地域と人の暮らしが生きている野菜を掘り起こして、その物語に耳を傾け、味わいを楽しみます。ぜひご参加ください。

- 毎月1回、1地方または1品目をとりあげます
- 地域の専門家の講演と食べくらべ、試食で構成
- 食べくらべは、テーマ野菜を、他の地方の野菜やF1種などと比較
- その地域に伝わる料理や新発想の食べ方を試食
- 各地に残る稀少な野菜に出合い、日本の食材の多様性、野菜の面白さを実感できます



【野菜の学校2015】の講座内容(予定)

講座：13時～16時 開場：12時30分

地方	品種・地方名	地方	品種・地方名
6月6日	和歌山 源五兵衛すいか	11月7日	高知 田村カブ／弘岡カブ
7月4日	富山 どっこ	12月5日	島根 出雲おろち大根
8月1日	佐賀 桐岡なす	1月9日	香川 金時人参
9月5日	鳥取 三宝甘長とうがらし	2月6日	三重 三重なばな
10月3日	山梨 やはたいも	3月6日	修了式・特別講座

※とりあげる野菜は、気象状況などによって変更する可能性があります。ご了承ください。

主催：NPO法人 野菜と文化のフォーラム ホームページ：www.yasaitobunka.or.jp

会場：東京都青果物商業協同組合ビル 8階会議室(秋葉原駅徒歩2分)

受講料：全期(10回):45,000円 半期(5回):23,000円 単発(1回):5,000円

お申込み

下記を明記の上、フアクスかE-mailでお送りください。

①受講希望期間 ②お名前 ③性別 ④職業 ⑤連絡先の住所 ⑥電話・フアクス ⑦メールアドレス
※受講料の入金確認をもって、申し込み成立とします。いったん納入された受講料の返金はいたしかねます。

送り先

FAX:03-5315-4978 (フーズワークス内) E-mail:info@yasaitobunka.or.jp

定員

45人 定員に達し次第締め切り

振込先

三菱東京UFJ銀行 秋葉原駅前支店 普通口座 0037764 名義 ミヤサキタケシ

お問い合わせ

03-5315-4977(10:00～18:00 フーズワークス内)





食育活動

全国の生協では、子どもたちと共に、食を知り、食を体験する食育活動「たべる、たいせつ」の取り組みを進めています。また日本生協連では、通信教育型子ども向け食育プログラム「たべる*たいせつキッズクラブ」を展開し、2013年度は39生協から、1,647人のキッズメンバーが参加しました。

たまねぎの定植を体験

わかやま市民生協では、2014年1月25日、紀の川市にある紀ノ川農協の生産者の畑で、組合員8家族18人がたまねぎの定植体験をしました。「子どもが何でもしたがる年頃で、一緒に植えたら楽しいかなと思い参加しました」という親子らが、黒いシートをかぶせた畝に苗を植えていきました。生産者から収穫の喜びや苦労を伺い、定植体験の後は、みんなで温かいスープを飲みながら生産者と交流を深めました。



▲シートに均等に開けた穴に、苗を差し込んでいきます。

泥だらけになりながら田植えを体験

コープみやざきでは、2013年6月8日、小林市で田植え交流会を行いました。参加した子どもたちは泥だらけになりながら、生産者、JA職員、うまい米づくり研究会の皆さんと一緒に田植えを体験しました。終了後の昼食交流会では、地元の方が用意した西諸牛や地鶏のバーベキュー、小林産のヒノヒカリのおにぎりに舌鼓を打ちました。参加者は生産者の方と語りながら、稲の成長を楽しみにしていました。



▲田植えの様子

ポリ袋を使ってパン作りに挑戦



▲パンがたくさんできました。

生協しまね松江北支所は、2013年7月29日、「わくわく おどろき パンづくり」を開催しました。ポリ袋で簡単にできるという呼びかけに、22人の組合員家族が集まりました。手を汚さずに一次発酵まで作業ができるので、小さな子どもたちもすぐに上手にできるようになりました。基本の生地ができれば、丸パン、コーンチーズパン、アイスコーンパンの3種類の成形に挑戦しました。参加した子どもたちは、「家でも作ってみたい」と目を輝かせていました。

みんなで天日塩作りにチャレンジ!

こうち生協では、2013年12月14日、安芸郡田野町にある天日塩「塩二郎」の製造所で、「親子で天日塩作りにチャレンジ!」を開催し、10家族30人が参加しました。子どもたちは、海水から塩ができるまでの過程を体験しながら、楽しく塩作りを学びました。お昼は、「塩二郎」を使って作った塩肉じゃがや、「塩二郎」を振りかけたご飯で天日塩を味わいました。「1年生の子どもが宿題の日記に天日塩作りの手順を細かく書いていました。体験は貴重なんだとあらためて思いました」との感想が寄せられました。



▲塩作りの様子

JAと共同で「たけのこ掘り体験」を開催

2014年4月12日、エフコープ(福岡県)では、JA北九と共同企画の「たけのこ掘り体験」を開催し、組合員15家族(大人29人、子ども23人)やJA北九の方、エフコープ職員などが参加しました。生産者からたけのこの探し方から掘り方までの説明を受けた後、竹林へ向かいました。子どもたちはたけのこ探しに夢中になり、大人も顔をのぞかせている穂先を見つけると歓声を上げて掘り起こしていました。生産者との交流や、実際に作物や自然に触れることを通じて、生産者の思いや「ものづくり」の大切さを知るよい機会になりました。



▲子どもたちもクワを振るう手に力が入ります。